



私の趣味《1》

オーディオへの回帰

五島明彦 (五島クリニック：高座郡寒川町)

高校、大学と自作スピーカーやアンプに明けくれ、医者になってからは、もっぱら購入できる範囲での、また、アパートにおけるぐらいのシステムを求めて、数年。以後は仕事が忙しくて、全く遠ざかっており、たまに気が向くと聴く程度でした。開業してもいろいろと雑務、診療に追われて15年、院長室におかれたシステムにはほとんど手も触れず、もちろん聴くことも少なく、TVが唯一の試聴でした。

オーディオにまた入り込んだきっかけは、たまたま遊びにいった兄の家でした。兄ももともとオーディオが好きで、かなり高価な真空管のシステムを持っていましたが、居間にセカンドシステムをおいて聴いていたところに私が行ったわけです。聴いた瞬間疲れが吹き飛びました。さてそれからが大変です。藤沢にあるオーディオショップを紹介してもらい、毎週のように通い、オタクの集まりのような店員さんと仲良くなり、ついにCDプレーヤー、スピーカー、プリメインアンプと順次購入しました。もちろん高価なので、家内同伴で試聴しました。女性の感性はとても信用できるものがあるようです。女性の好まぬ音は大抵良くない音の場合が多いと店員さんも言っていました。オーディオは組合せの妙で、価格の高いものの組合せが良いとは限らないのです。逆に安いものでも組合せがよいとなんともいえない魅力的な音がすることもあります。また機器の接

続に使うケーブルにも相性がありますし、使うアクセサリー、ラック等列挙すればきりがありませんが、最後は聴く部屋との相性になってしまいます。こう考えると訳がわからなくなりますが、このいろいろなパラメータをとっかえひっかえ、いろいろなひとの意見をきいたり、試聴会に行ったり、オーディオ雑誌をよみあさり、最後にはいつも家内の意見を聴き、組合せの妙に取り憑かれて歩んできたのが、この6年間でした。まだまだ道半ばですが。

現用機器はAクラスのパワーアンプ2台、プリアンプ、CDプレーヤー2台、真空管パワーアンプ1台、アナログプレーヤー1台、SPシステム2組等々をいろいろな組合せ、たとえば真空管アンプとアナログプレーヤー、トランジスタアンプをバイアンプにしてCDプレーヤーといった方法でも聴いています。定期的に組合せを変えて聴きたい音楽をいろいろな接続で楽しんでいます。ケーブルやインシュレーター、オーディオボードでいろいろ苦勞もしていますが、少し疲れてきた感があり、またきりがありません。俗に言う電線病ですが、確かに、音が変わりますが、劇的に変わるのはいはり機器ですので、ほどほどにして、たまに新製品を購入する程度にしています。ただ、機器に付属しているものは質が悪いので、最初から使わないのがいいと思います。さて上記のシステムでどう聴いているのかというと、基本的には、AクラスのアンプはBTL接続にして、弦楽器、オーケストラ、ピアノに、真空管アンプはジャズ、ポピュラー、ボーカル系にSPとの組合せで聴いています。診療が終わる少し前に暇を見つけて電源をオンにしておき、ちょうど温まったところに聴くようにしていますが、ジャンルはその時の気分で、疲れて人の声が聴きたくないときにはクラシック系を、特に、辻井伸行さんのピアノなどはほっとしますし、ヨーヨー・マのバロックチェロもたびたびかけます。ちょっと気持ちにゆとりがあ



院長室のシステムの前で

れば、レコードもたとえば井上陽水などもかけたりします。最近ハマっているのは小澤征爾指揮のサイトウ・キネン・オーケストラのベスト盤です。気迫のこもった躍動感のあふれる演奏で、実に聴いていて楽しく、睡魔のおそってこないクラシックです。皆さん是非聴いてみてください。カーステレオですらその良さは十分実感できます。JAZZはブルーノートや古いものが雰囲気があっていいと思っています。何かバタ臭さや、煙草の匂いが感じられるようで、独特の聴感が得られるようです。本来はLPがいいのかもしれませんが、なかなか高価なものも多く、CDで聴くしかないようです。

最近のオーディオの流れとしては、CDは高音質化のSACDへ、またネット配信利用のネットオーディオへと移ってきています。ネットオーディオもネットワーク、USBのどちらを選ぶかで分かれまます。要するに、マスターに近い上流のデータを配信などでまるごと入手し、ディスクを介さずに再生するという方法です。DACというものを購入して、パソコンを使い、再生してみましたが、確かに高音質ですが、有料であることと、ソフトがまだ豊富でなく、DRMという規制のかかったものも多く、外国に比してまだまだ遅れています。また高音質=好

きな音でもなく、PCの性能、メーカー差や、DACの精度にもより、音楽の表現やオーディオ的な音の整合性が変わってきてしまうこともあります。WindowsとMacの音の違いや、再生ソフトによる音質の差、またパソコンの処理能力の差も音質に影響します。もちろんUSBケーブルにも音質差があるようです。いろいろと音質に影響するパラメータが多くて、困ります。結局今はネットオーディオは一休みで、従来からのCDやアナログレコードに凝っています。SACDも増やしています。

ざっとここまで書きましたが、常にオーディオは進化していて、ついてゆくのも大変ですが、最終的に音が届くところは耳というアナログ器官です。自分の音感を常に磨きながら、良いものはしっかりと評価できる耳を持てるように日夜励んでおります。診療後に聴く音楽が今は一番の元気の出る薬です。

追伸、最近震災が怖くなり、震度7でも大丈夫な世界初というゴム製のシールで、スピーカーをはじめ、いろいろな機材を固定したところ、明らかに音の鮮度が向上しました。振動吸収は音にも良い結果をもたらすようです。ホームセンターにありますので皆さまもお試してください。



私の趣味《2》

山に行こうよ

高橋京子 (川崎市立川崎病院皮膚科：川崎市川崎区)

ここ数年、テレビ番組や雑誌では、カラフルでおしゃれなアウトドアファッションに身をつつみ登山を楽しむ女性たちが「山ガール」と呼ばれ、特集されるのをたびたび目にします。「ガール」というには妙齢すぎる私ですが、日々の診療の合間に、時間を見つけては山に登るのが私の趣味です。

山との出会いは、まだ子供だった頃。山男だった父に、私はあちこちの山を連れまわされました。なぜ、せっかくの休日にわざわざ疲れることをしなければいけないんだろう？山登りなんて大嫌いでした。高校生の時、連れていかれた丹沢では、下山の

途中ですっかり日が暮れて真っ暗になってしまい、月の明かりを頼りに泣きながら山を下りたのを覚えています。それっきり、しばらくは山とは縁遠い生活を送ることになりました。

時が過ぎ私は皮膚科医となり、そして数年がたちました。大学病院に勤務していた時、ふとしたことから、当時一緒に病棟勤務していた先生達と谷川岳に登ろうという話で盛り上がり、実行することになりました。季節は秋。さわやかな晴天にめぐまれ、谷川岳は紅葉まっさかり。あれ、もしかして山登りって楽しい？ということに気づかせてもらいました。

谷川岳は、頂上近くまでロープウエーで登れるため、景色のよい、おいしいところだけ楽しめたということも大きかったのかもしれませんが。それをきっかけに、私は登山の楽しさに目覚め、ちょこちょこと休日には山に出かけるようになりました。

山登りは、多様な楽しみ方があるのが大きな魅力だと思います。もともと、運動が大の苦手でインドア派の私みたいな人間でも、自分のペースで楽しめる山があるのは、とてもありがたいことです。あえて困難なルートを選ぶチャレンジングな登山もあれば、四季折々の花などをテーマに低山めぐりをする登山もあります。百名山踏破を目指すのも人気です。一度登った山も季節や天候により表情が変わるので、好きな山は何度でも登りたくなります。いつまでもやりたいことが尽きず、年をとっても楽しめそうです。

そして、火山の国日本では、山があれば、そのふもとにたいていセットであるのは…温泉！下山後、温泉に入って「ふう〜っ」とため息をつき汗を流す瞬間は、なんとも言えず最高に気持ちよいです。「山に登って、温泉」というのが私の好きなスタイルです。

また、装備を整えるのも楽しい時間です。どの登山グッズも技術の粋が結集され、非常にコンパクトに軽量化にできています。手のひらサイズのガスコンロや、ペットボトルほどの大きさにコンパクトにしまえる寝袋など…眺めているとあっという間に時間がたってしまう。(そして必要ないものまで買ってしまうという…) ウエアも高性能かつかわいいデザインなものがそろっており、チェックの綿シャツにニッカボッカ、背にはキスリングというかつての定番スタイルは今や絶滅危惧種と思われます。新しい装備を買うとテンションが上がり、それを使うた



3月、雪の八ヶ岳にて。いっぱいいっぱいです

めの登山の計画を立ててしまいます。順序が逆ですね。

相変わらず、キツイ登り道では、せっかくの休日なんだから家で寝てればよかったという後悔の嵐なのですが、下山の時には寝休日を過ごす以上にすっきり体も心も軽くなっているのに気づくようになりました。山頂近くの山小屋に宿泊し、早朝、遠くから日が昇るのを拝むと、わけもなく、感謝の気持ちがあふれてきて心身に溜まっていたよんどんだものが溶けていくのを感じます。多くの山がいわゆる「パワースポット」とされるのには納得です。私たちは、日々の診療で、病にさらされ負のパワーを溜め込みがちなので、時々、こうやって除染する作業が必要なのかもしれません。

素人ながら、少しだけ雪山にもチャレンジしています。雪山の美しさは格別で、それは原始の自然の姿に近いと聞いたことがあります。何年か前の3月、プロの登山家の方々に助けてもらいながら、雪の八ヶ岳を登ったことがあります。正直なところ、私の技量以上の登山だったので途中で体が動かなくなりそうでしたが、なんとか、赤岳稜線にでた瞬間に思いがけなく出会った景色には息をのみました。白く美しく、厳かな展望が眼下に広がり、尾根では体をもっていかれそうな強い風が吹いていましたが、しばらく吹かれていたような気分でした。

その雪の八ヶ岳で、私をロープで山頂まで引き上げてくれたのが、今の夫です。山では本当に思いがけないものに出会うものだなと思います。



さわやかな夏山で身も心もリフレッシュ